

製品名: WAVE1 (リン酸化Tyr125) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05629**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	70kDa

抗原情報

遺伝子名	WASF1
別名	WASF1; KIAA0269; SCAR1; WAVE1; Wiskott-Aldrich syndrome protein family member 1; WASP family protein member 1; Protein WAVE-1; Verprolin homology domain-containing protein 1
遺伝子 ID	8936.0
SwissProt ID	Q92558
免疫原	抗血清は、ヒト WAVE1 の Tyr125 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 91-140

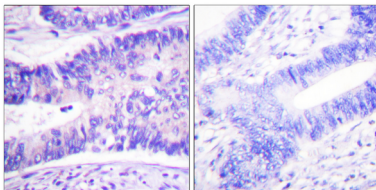
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ウィスコット・アルドリッチ症候群タンパク質 (WASP) ファミリーに属し、Rhoファミリーの低分子 GTPase である Rac の下流において、膜の波立ちに必要なアクチン細胞骨格の制御において重要な役割を果たします。このタンパク質は、in vitro においてアクチン核形成コア Arp2/3 複合体と会合し、アクチンの重合を促進することが示されています。ウィスコット・アルドリッチ症候群は免疫系の疾患であり、アクチン細胞骨格の制御における欠陥に起因すると考えられます。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシングを受けた転写バリエーションがみつかっています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン: C 末端領域を介して Arp2/3 複合体に、またベルプロリン相同性 (VPH) ドメインを介してアクチンに結合します。機能: チロシンキナーゼ受容体および低分子 GTPase からアクチン細胞骨格へのシグナル伝達に関する下流エフェクター分子です。類似性: SCAR/WAVE ファミリーに属します。類似性: 1 つの WH2 ドメインを含みます。細胞内局在: 細胞質内にドット状のパターンを形成します。Rac 制御性の膜波状領域に集中しています。サブユニット: ABI2、CYFIP2、C3orf10/HSPC300、NCKAP1、および WASF1/WAVE1 からなる WAVE1 複合体の構成要素です。CYFIP2 は活性化 RAC1 に結合し、複合体を解離させて活性化 WASF1 を放出します。この複合体は NCK1 によっても活性化される (類似性による)。アクチンおよび Arp2/3 複合体に結合し、BAIAP2 と相互作用する。組織特異性: 脳で高発現。精巣、卵巣、結腸、腎臓、膵臓、胸腺、小腸、末梢血で低発現。

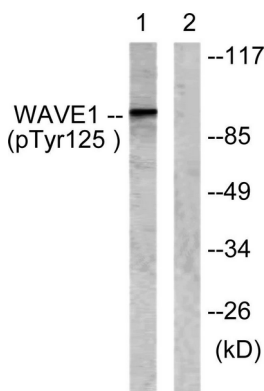
研究分野

Adherens_Junction;Fc γ R を介した貪食;アクチンと細胞骨格を調節します。

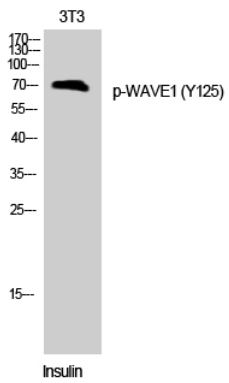
画像データ



WAVE1 (リン酸化 Tyr125) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト大腸癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



インスリン 0.01U/ml を 15 分間処理した NIH/3T3 細胞のライセートを、WAVE1 (リン酸化 Tyr125) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 WAVE1 (Y125) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析